



1300年の時空を越えて「赤米献上」

11月1日、今年度も6年生が保護者や地域の皆様とともに奈良平城宮跡まで「赤米献上の旅」に行ってきました。本校のふるさと学習の中核である「赤米学習」の中でも最後の学習活動です。

全校生の前で出発式をしました



前日の10月31日には「赤米献上の旅・出発式」を行いました。全校生に行ってきまのあいさつをし、3年生から赤米を受け取りました。

市役所や沿道には、保護者・地域の皆さんが多数集まってくださいました。市長より、木簡を手渡していただきました。



市役所での出発式



いざない館から朱雀門ひろばを、献上隊が行進しました。天平衣装を着た子どもたちの行列を、多くの観光客が歓迎してくださいました。



朱雀門での赤米献上の儀。天平衣装を着た役人が登場しました。役人に赤米と木簡を献上し、赤米献上隊は無事にその任務を終えました。

赤米の献上が無事に終わり、役人の方と、6年生の赤米献上隊が朱雀門前で記念撮影をしました。



いざない館に戻り、木簡やその他の出土品が展示されたスペースで説明を聞いたり、展示物を見たり、体験コーナーで体験したりしました。



平城宮跡に続いて東大寺を訪れました。大仏殿では大仏様のスケールの大きさに圧倒されます。大仏を見上げる子どもたち。

- 平城宮跡で木簡が見つかったのが昭和38年、小佐地区で赤米栽培が始まったのが昭和63年です。当時の小佐地区では赤米を育てて奈良平城京への献上を再現したいという機運が高まったそうです。それが本校の「赤米学習」へとつながっています。赤米を育てるだけでなく、1300年前と同じように平城宮に献上しようという強い思いを感じます。歴史をつないだ瞬間であったと思います。
- 木簡に記されている「天平勝宝7年(755年)」は、奈良の大仏が建立されてから3年後です。赤米を送り届けた小佐の人々は、この旅の6年生と同じように、できたばかりの巨大な奈良の大仏を見上げたのかもしれない。

- 6年生の子どもたちは、3年生で赤米を植えた時から、「赤米学習」を通して、時間と距離を超えたストーリーの中にいたということです。この旅の終わりに、帰りのバスの中で「これからもこの赤米作りと赤米献上はずっと続けていきたい」と話してくださった小佐自治協議会の方の言葉が、心に残っています。このように夢のつまった事業を始めてくださり、八鹿小学校のふるさと学習につないでくださった皆さまに感謝申し上げます。

■ 大庄屋記念館見学 【3年生】 11月7日

11月7日、3年生は江戸時代の後期に建てられ、市指定文化財の「大庄屋記念館」へ学習に行ってきました。母屋には、家畜と一緒に生活していたという広い土間や台所、五右衛門風呂、囲炉裏の間、客殿などがあり、昔の道具やわらで作られた草履などを見せていただきました。昔の子どもには、手伝いではなく、朝一番の水くみや囲炉裏に木をくべるなど家族の一員として決まった仕事があったことを教えていただきました。



■ 演劇ワークショップ！ 【5・6年生】 11月7日、8日

今年も、豊岡の江原河畔劇場の方を講師にお迎えして、演劇ワークショップを行いました。7、8日の2日間は5・6年生がお世話になりました。

最初にコミュニケーションゲームをしてから、お題に添ってグループに分かれて劇を創っていきました。ジェスチャーだけ

で相手に伝えるようにするのは難しいですが、話し合いながら作り上げていく過程がとても大切だと感じました。一人一人が役割を果たし、表現する心地よさを体感できた時間となりました。



■ こども園との交流会 【1年生】 11月11日



1年生が、来年入学してくる、日光、たいようの2つのこども園と小佐保育所のみなさんと交流会を行いました。プログラムを考え、飾りを作ったり、教室や体育館で練習したりする姿を見ていました。当日は、小学校の校歌を歌ったり、鍵盤ハーモニカの演奏、体育で学んだ技や縄跳びを披露したりしました。みんなで楽しめるゲームも行いました。最後に、1年生が大切に育てたああさがおのタネとお手紙を渡しました。こども園、保育所のみなさんには、小学校のことを知ってもらう機会になりました。また、1年生にとっては、これまでのしてもらった側から、してあげる立場になる自覚が芽生えた行事になったことと思います。園や保育所の先生方にも、子どもたちの成長を見ていただくことができました。

